メディア教育研究　第７巻　第１号
Journal of Multimedia Education Research 2010, Vol.7, No.1, R9－R18

研究開発速報

韓国教育放送公社EBS-eの小学生対象の番組分析

カレイラ松崎　順子[1)]

韓国の小学校では，1997年に英語を正規教科として取り入れているが，都市と地方において英語の学力格差が見られ，このような格差を解決するために，2007年に韓国教育放送公社（Korean Educational Broadcasting System）の英語番組専門放送チャンネルEBS-eを開局した。本稿では特に，EBS-eの小学生用の番組のうち，小学校の英語の授業に関係のある「初等教科書英語」,「放課後英語」，および「School English Leve１」を選んで分析を行った。韓国は，すでに小学校で英語を教科として教えており，小学校の英語教育をサポートするための教材や環境という点において日本より進んだ英語教育を行っており，日本が参考にできる点が多い。ゆえに，本稿では，EBS-eの小学生対象の番組分析を行い，日本はEBS-eからどのようなことを学べるのかを探っていく。

キーワード
英語教育，小学校，韓国，EBS-e，放送番組

1．はじめに

日本の小学校において外国語活動が2011年度より正式に必修化されるが，担当する教師に関しては，「外国語活動の目標から，児童が進んでコミュニケーションを図りたいと思うような，興味・関心のある題材や活動を扱うことが大切である」（文部科学省，2008，p. 18）ため，このような題材や活動を設定するためには，児童のことをよく理解していることが前提となる。そのため，「授業の実施については，学級担任の教師又は外国語活動を担当する教師が行うこと」と明記されており，さらに「外国語活動を専門に担当する教師が授業を行う場合にも，学級担任の教師と同様に初等教育や児童を理解し，授業を実施することが大切である。以上のことから，学級担任の教師または外国語活動を専門に担当する教師が指導計画の作成や授業の実施を行うことが求められる」（文部科学省，2008，p. 18）と記載されていることから，今後小学校の教員が中心となって英語を教えるようになることは予想できる。しかし，英語があまり得意でない小学校教員も多いため，小学校教員をサポートする教材が早急に必要である。

また，現在，Assistant Language Teacher（ALT）や英語専門教員の確保など市町村により地域差が見られるため，日本全国同じ条件で小学校の外国語活動を行っていけるかということも大きな問題となっている（岡・金森，2007）。

一方，韓国の小学校では，1997年に小学３年生から英語を正規教科として取り入れており，小・中・高一貫の教育課程の確立，国定教科書や教材の開発，充実した教員養成，研修制度など，周到な準備のもと英語教育が導入された（樋口，2005）。しかし，都市と地方において英語の学力格差が見られ，このような格差を解決するための手段として注目されたのが放送やインターネットなどのメディアを使った学習教材であり，政府が最もその発展に力を注いでいるのが，2007年４月に開局した韓国教育放送公社（Korean Educational Broadcasting System，以下EBS）のKorean Educational Broadcasting System English（EBS-e）である（渡辺，2008）。

EBS-eは英語教育の番組のみを放送しており，視聴者を「幼児」,「小学生」,「中学生・高校生」,「母親・教師」，および「成人・一般」の５つに区分している。この５つのゾーンのなかで最も大きな部分を占めているのが，小学生向けの番組である。現在，ホームページ上に75の小学生向け番組があり，すべての番組を視聴することができ，レベルテストやゲームなども行うことができる。

日本と韓国は「アジアの非英語圏」という「外国語学習環境」という点で，似通った環境にあるため，進んだ英語教育を行っている韓国の情勢は，今後の日本の英語教育を考えるうえで大いに参考になるであろう。ゆえに，本研究では韓国のEBS-eの小学生対象の番組分析を行うことにより日本の小学校の外国語活動に示唆を与えていく。

1) 東京未来大学

2. 第７次教育課程

韓国では1954年以降，さまざまな教育改革がなされてきた。第１次教育課程（1954～1963）から始まり，第２次教育課程（1963～1974），第３次教育課程（1974～1981），第４次教育課程（1981～1987），第５次教育課程（1988～1991），第６次教育課程（1992～1996）と続き，1997年12月30日に第７次教育課程が告示された（河合，2004）。

韓国の小学校における英語教育は，1972年一部の指定学校で特別活動の時間に行われ，第４次教育課程がはじまる1981年より教育改革の一環として小学４年生以上を対象に「特別活動」のなかで始まった（金，2007；師子鹿，2009；杉山，2008）。1980年代の韓国は経済的に大きく発展し，1988年に第42回オリンピックがソウルで開催されるなど，韓国が国際化にむけて真剣に取り組み始めた時代である（師子鹿，2009）。そのような中，小学校における英語教育は第５次教育課程がはじまる1988年に学校ごとに自由な学習活動を行うことができる「裁量時間」を利用しながら主に小学５・６年生を対象に実施された。さらに，1995年11月に，1997年から小学校において英語を正規の必修科目とすること，小学３年生から学年進行で段階的に導入することが告示され，その後２年間の複数の研究校における試験実施が行われたのち，第７次教育課程が1997年に制定された（師子鹿，2009；杉山，2008）。

第７次教育課程は「人材育成の目標として，①国際化・情報化に対応できる基礎能力を保持し，②個性豊かで創造的な能力を発揮でき，③韓国および国際社会に貢献できる―人材の育成をあげている」（樋口，2008，pp. 127-128）。また，小・中・高一貫を目指しており，小学１年生から高校１年生は「国民共通基本教育課程」として一貫性のあるカリキュラムを編成し，高校２年生から高校３年生は「選択中心教育課程」という水準別授業を実施した（樋口，2008）。小学校においては共通課程の「基本課程」のほか「深化・補充型水準別教育課程」を導入して能力別授業を推奨している。「深化・補充型水準別教育課程」は児童が能力と個人差に応じて教育を受けることができるように，基本課程の達成水準に達しない児童を対象とする「補充課程」と基本課程の達成水準に達した児童を対象とする「深化課程」に分かれている（韓国教育部，1997）。

第７次教育課程において小学校の英語教育の指導方針として以下のようなことがあげられている（韓国教育部，1997）。

- 実生活の中での感覚と経験が思考と行動に深く作用し，好奇心が強いという小学校の児童たちの特性を考慮する。
- 実生活で接することのできる感覚と遊びを中心とし，体験学習を通じて発見の楽しさを味わうことができるようにすることが効果的である。
- 児童は，記憶する能力が十分とは言えず，集中力も長く続かないので，反復学習等やマルチメディアのような，多様で興味を引くことのできる教育媒体の活用を推進する。

また，必修化導入時の1997年は第６次教育課程が適用されており，当初，小学校において，英語は週２時間（１授業時間は40分）実施されることになった。しかし，2001年度から開始された第７次教育課程において「裁量時間」が「裁量活動」に改称されるとともに従来の週０～１時間から週２時間に拡大されたことに伴い，英語の授業時間数が小学３年生から小学４年生では週１時間に減った。なお，小学５年生から小学６年生では週２時間実施されている。したがって，英語の年間実施時数は，小学３年生から小学４年生で34時間，小学５年生から小学６年生で68時間である（韓国教育部，1997）。

3. 2007年改訂教育課程

2007年に第７次教育課程が10年ぶりに改訂され，2009年度から随時施行されている。第７次教育課程では，小学３年生は「聞く」「話す」のみで，小学４年生で「読む」を開始し，「書く」は小学５年生から導入されていたが，2007年の改訂で，「読む」が小学３年生に，「書く」が小学４年生に導入されることになった。

教育人的支援部（2007，pp. 6-10，著者翻訳）は，2007年改訂教育課程において「聞く」の各学年の達成基準を以下のように定めている。

３年生

- 英語の声と強勢，リズム，抑揚を聞いて識別する。
- 身近な単語を聞いて理解する。
- 挨拶などの表現ややさしい慣用的表現を理解する。
- １文の簡単な指示，命令により行動する。
- １文を聞いて該当する絵を探す。
- 短くてやさしい内容のチャンツや歌を聞いて理解する。
- やさしくて簡単なゲームや遊び内容を聴いて理解する。
- 個人の日常生活に関するやさしくて基礎的な対話を聞いて理解する。

４年生

- 日常生活に関する簡単な対話を聞いて理解する。
- 身近な事物と人に関するやさしくて簡単な話を聞いて理解する。
- １～２文の指示や命令を聞いて行動する。
- やさしくて簡単な対話を聞いて，対話が起きた場所と時間などが分かる。
- やさしくて簡単な役割遊びの内容を理解する。

- やさしくて明瞭な説明を聞いて単純な課題を遂行する。

５年生

- 過去のことに関する簡単な文章を聞いて理解する。
- やさしくて簡単な対話を聞いて主要内容を理解する。
- 簡単な話や対話を聞いて状況を理解する。
- 基礎的な電話の対話を理解する。
- 絵と実物に関する説明を聞いて理解する。
- 簡単な内容の説明を聞いて課題を遂行する。

６年生

- 簡単な話や対話を聞いて中心的な内容を理解する。
- 簡単な話や対話を聞いて細部事項を理解する。
- 簡単な話や対話を聞いて事件が起きた順序が分かる。
- 前に起きたことに関する簡単な話を聞いて理解する。
- 理由を聞いて答えるやさしくて簡単な対話を聞いて理解する。
- 対象を比較するやさしい話や対話を聞いて理解する。
- 日常生活に関する簡単な内容の話や対話を聞いて意図や目的を理解する。
- 簡単な電話の対話を理解する。

３年生においては，簡単な単語を聞いて理解し，挨拶などの定型文や１文の簡単な指示，命令が理解できることが目標とされているのに対し，４年生ではやさしくて簡単な対話を聞いて，対話が起きた場所と時間などが分かる,簡単な対話が理解できるなどが目標となっている。さらに，５年生では過去に関する文章を理解し，簡単な話や対話を聞いて状況を理解し，基礎的な電話の対話を理解するなどより難しい内容が理解できるようになることが目標となっており，６年生では簡単な話や対話を聞いて事件が起きた順序や対象を比較するやさしい話や対話を聞いて理解するなどより複雑な英語を理解できることが目標となっている。

教育人的支援部（2007，pp. 6-10，著者翻訳）は，2007年改訂教育課程において「話す」の各学年の達成基準を以下のように定めている。

３年生

- 英語の強勢，リズム，抑揚に合うように話す。
- 身近な単語の名前をいう。
- 挨拶などの慣用的表現をいう。
- 実物や絵を見て単語や１文で話す。
- 個人の日常生活に関してやさしくて簡単な表現を聞いて答える。
- 短くてやさしい内容のチャンツや歌をまねる。
- やさしくて簡単なゲームや遊びに参加する。

４年生

- 日常生活でしばしば使われる慣用的表現をいう。
- 実物や絵を見て文で話す。
- 身近な事物と人に関して１～２文で話す。
- １文からなる指示や命令をいう。
- やさしくて簡単な役割遊びに参加して適切な話と行動をする。

５年生

- やさしくて簡単な表現を使って状況と目的に合うように聞いて答える。
- 日常生活に関してしばしば使われる慣用的表現を状況と目的に合うように使う。
- やさしくて簡単な対話を聞いて主要な内容をいう。
- ２～３の連続した文で命令や要請をする。
- 過去のことに関して簡単に話す。
- 基礎的な電話の対話を行う。

６年生

- 日常生活に関するやさしくて簡単な話や対話を聞いてその内容に関して対話する。
- 日常生活に関する簡単な対話を聞いて主要な内容をいう。
- 日常生活に関する簡単な対話を聞いて細部事項をいう。
- 日常生活に関する理由を尋ねる言葉に簡単に答える。
- 絵や漫画の内容を順に話す。
- 前にするべきことに関して簡単に対話する。
- 簡単な電話の対話を行う。

「話す」においては３年生では身近な単語の名前や挨拶などの慣用的表現をいうなど，３年生で「聞く」の目標とされるものが話せるようになることが目標として設定されている。４年生では日常生活でしばしば使われる慣用的表現や身近な事物と人に関して１～２文で話すなど４年生の「聞く」において目標となっていることが話せるようになることが達成基準になっている。５年生になると２～３の連続した文が話せるようになり，さらに過去のことが言えるようになるなど表現できる範囲が広がっていく。６年生では簡単な対話を聞いて，その内容や細部事項が言えるようになり，絵や漫画の内容を順に話せるようになるなどさらに高度な内容が話せるようになることが目標となっている。

教育人的支援部（2007，pp. 6-10，著者翻訳）は，2007年改訂教育課程において「読む」の各学年の達成基準を以下のように定めている。

３年生

- アルファベットの大文字・小文字を識別する。
- 絵，実物，動作等を通してやさしくて簡単な単語を認識する。

４年生

- アルファベットの大文字・小文字を識別して読む。
- やさしくて簡単な単語について読む。
- 音と綴りとの関係を概略的に理解する。
- 絵，実物，動作等を通してやさしくて簡単な単語の意味を理解する。

５年生

- やさしくて簡単な単語を声に出して読む。
- 音と綴りの関係を理解する。
- やさしくて簡単な単語の意味を理解する。
- 聞いた単語と一致する単語を探して読む。
- 簡単な語句を読む。
- 口頭で習った語句を読む。

６年生

- 口頭で習った文章を読む。
- やさしくて簡単な語句や文章を読んで意味を理解する。
- やさしくて簡単な文章を声に出して適切に切って読む。
- 聞いた文章と一致する文章を探して読む。
- 日常生活に関する短くてやさしい文を読んで理解する。

「読む」に関しては３年生ではアルファベットの認識や簡単な単語を認識するということが目標となっているが，４年生になるとそれらを読めるようになることが目標となる。また，５年生になると簡単な語句や口頭で習った語句を読むなど様々な語句が読めるようになることが目標となり，６年生ではやさしくて簡単な文章を読めるようになることが達成基準となっている。

教育人的支援部（2007，pp. 6-10，著者翻訳）は，2007年改訂教育課程において「書く」の各学年の達成基準を以下のように定めている。

４年生

- アルファベットの大文字・小文字を見て書く。
- 口頭で習った単語を書く。

５年生

- 音と綴りの関係を基礎にしてやさしい単語を聞いて書く。
- 実物や絵に該当する単語を書く。
- 学習した単語を聞いて書き取る。
- やさしい単語を覚えて書く。

６年生

- 口頭で習った語句や文章を書く。
- 例示文を参考にして実物や絵を１文で描写して書く。
- 文章中で大文字・小文字と句読点を正しく使う。
- やさしくて簡単な誕生日カードや感謝カードを書く。

「書く」に関しては４年生ではアルファベットや習った単語が書けるようになることが目標となっているが，５年生では学習した単語を聞いて書き取るや音と綴りの関係を基礎にして書けるようになるなど，単語がしっかり書けるようになることが目標となっている。６年生では口頭で習った語句や文章などが書けるようになることが達成基準となっている。

ところで，第７次教育課程では「基本課程」と「深化課程」に分かれ，児童の水準に応じて多様な教授法を展開するというものであったが，実際は現状の学校システムに対応できなかったため2007年の改訂では，「深化課程」を廃止し，すべての児童が習得すべき基本事項のみを記載している（杉山，2009）。

また，2008年に就任した李明博大統領は「英語公教育完成プロジェクト」を発表し，国家競争力の向上のために人材育成と私的教育費の負担減という視点から，公立学校における英語教育を強化するため，英語以外の科目も英語で授業を行う「英語没入教育」いわゆるイマージョン教育の導入や小学校での英語授業時間数の増加などを計画した。この計画を2008年から2014年までの７年間で段階的にすすめ，教育環境のために総額４兆ウォン（約4521億円）を投じる予定であるという（杉山，2009）。

4. Korean Educational Broadcasting System English（EBS-e）

韓国では小学６年生の約７割が英語学習のために，塾や家庭教師を利用しているといわれている（韓国教育部，2007）。ゆえに，塾が多い都市と塾やその他の学習手段が乏しい地方では英語の学力格差が生まれている。たとえば，韓国では毎年小学６年生を対象に「国家水準学業成就評価」という全国規模の学力テストを実施しているが，都市と地方における点数差は英語が最も著しく（渡辺，2008），そのような問題を解決する方策の一つとして，政府は多様なマルチメディア資料やInformation and Communication Technology（ICT）ツールを活用することを奨励している（渡辺，2008）。これらのメディアの代表であり，政府が最もその発展に力を注いでいるのが，2007年４月に開局した英語番組専門放送チャンネルであるEBS-eである（渡辺，2008）。

EBSは1990年にKBS（韓国放送公社）から教育放送部門が分離して開局した教育放送の専門局であり，2003年に公社化され，現在のEBSとなった。EBSは地上波として教養・文化・芸術番組を放映しており，衛星波は，EBSプラス１（大学入学試験専門番組），EBSプラス２（小・中学生向け番組・資格取得・職業訓練），およびEBS-e（英語番組専門）の３つにわかれている。なお，EBS-eは衛星放送とともにケーブルテレビでも配信されており，韓国全世帯の約８割が視聴可能であり，日本の文部科学省にあたる韓国の教育科学技術部が財政支援を

行っている（渡辺，2008）。EBS-eは学校の授業でも自宅でも学習でき，すべての番組がホームページ上から視聴することができる。

日本においてEBS-eに関する研究はまだ少ないが，先駆的な研究としてSchool English Level（SEL）に関する研究を行った渡辺（2008）があげられる。SELは学校の授業で使用することを前提として制作された番組であり，各番組の教材がホームページ上からPDF教材としてダウンロードできるようになっている。インチョン広域市はブロードバンド・インターネット加入者が多いため，EBS-eの研究校に指定されている小学校がいくつかあり，渡辺はその中の南部小学校とスンイ小学校においてEBS-eのSELに関するヒアリング調査を行った。以下は教師に対するヒアリング調査結果の一部である（渡辺，2007，p. 62）。

〈評価できる点〉

韓国人教師でも一定のレベルの授業ができることへの評価が高い。

- 文字と音の関係が，音と映像からわかるのでわかりやすい。（３年担任）
- 英語が得意でない教師でもEBS-eを使えば効率的に教材が準備できる。（４年担任）
- 番組視聴やWEBサイトのレベルテストを宿題にすることで，学校と家庭とを連動させた学習ができる。（３年担任）

〈不満な点〉

総じて番組のレベルに関する指摘が多い。

- 必ずしも教科書の内容と連動していないし，学年と番組のレベルが一致していない。（６年担任）
- ２学期に入って急に文法中心になり難易度が上がった。番組のレベルが一定でない。（４年担任）

以下は児童に対するヒアリング調査結果の一部である（渡辺，2007，p. 62）。

〈授業での利用について〉

- 番組の出演者が同じ学年の子なので親近感が持て，勉強する気になる。（６年女子）
- 一つのテーマが，歌やアニメなどいろいろな形式で繰り返されるので，頭によく入る。（６年男子）

〈家庭での利用について〉

- 家でも，単語をゲームで覚えたり，自分で勉強するのが楽しい。（５年男子）
- 塾はどんどん先に進んでしまうが，EBS-eは自分のペースで勉強できる。（５年男子・６年女子）

また，以下はインチョンとソウルで行った母親に対するヒアリング調査結果の一部である（渡辺，2007，p. 62）。

〈評価できる点〉

- 手品や歌などの演出があり，学校でも家でも子どもが飽きずに学習できる。（インチョン２年・６年母）
- 小学生向けの番組が多いので，テレビをつけっ放しにして，家庭でも英語に触れる環境作りをしている。（インチョン２年・４年母）

〈不満な点〉

- まわりのみんなが塾に通っているのに通わせないのは不安。EBS-eに塾以上の効果があるのかどうかわからない。（ソウル５年母）
- EBS-eの学習で，TOEICやTOEFL，大学受験に対応できる実力が身につくか不安。（ソウル４年母）

上記から児童はEBS-eを楽しい番組であると評価しているが，教師はEBS-eが授業をサポートしてくれる番組であると認めながらも，番組の内容やレベルには不満を持っていることがわかる。さらに，母親は自宅で英語に触れる環境を作るのには効果的であるが，EBS-eに塾以上の効果が得られるのか不安に思っているようである。

5. 本研究の目的

韓国がこのように放送番組に力を入れているのは，都市と地方の学力格差が見られるためであり，このような格差を解決するための手段として注目されたのが放送やインターネットなどのメディアを使った学習教材である（渡辺，2008）。韓国は，すでに小学校で英語を教科として教えており，教員養成および小学校の英語教育をサポートするための教材や環境という点において日本より進んだ英語教育を行っており，日本が参考にできる点が多い。日本では，韓国の言語政策・メディア関係の研究は行われているが，EBS-eの研究はほとんど行われていない。日本の英語教育における学校放送番組の在り方は，2011年度より正式に必修化される小学校外国語活動にとって重要な問題である。ゆえに，EBS-eに関する研究は日本の小学校外国語活動および学校放送番組の在り方に多くの示唆を与えると考え，本研究の着想に至った。本研究では，EBS-eの小学生対象の番組分析を行い，日本はEBS-eからどのようなことを学べるのかを探っていく。

6. 番組分析

本研究ではEBS-eのホームページ上の各番組を視聴し，各番組の特徴を記載していく。本研究では特に，초등 교과서 영어（初等教科書英語），방과후 영어（放課後英語），およびSELという学校に関係があるシリーズを選び，分析を行った。

6.1　초등 교과서 영어（初等教科書英語）

「初等教科書英語」には초등３교과서 영어（初等３年教科書英語），초등４교과서 영어（初等４年教科書英語），

초등５교과서 영어（初等５年教科書英語），および초등６교과서 영어（初等６年教科書英語）の４つの番組がある。

「初等３年教科書英語」および「初等４年教科書英語」は同じ番組構成（各16回）であり，出演者は英語母語話者男性１名である。Hani's Roomでターゲットとなる表現の紹介が韓国語のアニメにより行われ，Let's Checkでは動物の映像を使ってターゲットとなる表現を説明している。Let's Speakでは，口をアップにした映像が映し出され，それをまねて発音練習を行うコーナーがあるが，発音練習は実際に教室の児童が行うことができるように音声が入っていないところもあり，番組をそのまま授業で使用できる。Let's Playではゲームを行っている教室の様子が放映されるため，教室で同じゲームを行うことができる。たとえば，４年生の番組のHow much is this?では買い物ゲームを行っている。さらにLet's Zoom inでは世界の動物や食事など国際理解を促すような内容が映像により紹介される。

一方，「初等５年教科書英語」および「初等６年教科書英語」は各32回であり，出演者は英語母語話者男性１名である。奇数回は「初等３年教科書英語」および「初等４年教科書英語」とほぼ同じ番組構成になっており（上記を参照），偶数回は以下のような構成になっている。Let's Checkにおいて英語母語話者がターゲットとなる表現の導入を行い，Let's Chantではリズムに合わせて，ターゲットになっている表現を練習していく。たとえば，I'm stronger than youの番組では動物の映像を映しながら，リズムのいい音楽にあわせて答えを提示している。また，チャンツと字幕のみを示し，視聴している児童に言わせる場面もある。すなわち，一方的に番組を視聴するだけではなく，児童も参加させるような工夫がなされている。また，Let's Writeでは児童が劇を行い，Let's Exerciseでは空白を英語で埋める問題を行っている。

「初等教科書英語」は番組を視聴するだけでなく，児童が番組を視聴しながら番組に参加できる工夫がなされており，紹介されているゲームもそのまま教室で使えるものが多い。ゆえに，「初等教科書英語」は教科書の補助教材として日本が参考にできる番組である。

6.2　방과후 영어（放課後英語）

「生放送放課後英語」という生放送の番組があり，統合（月曜日），聞きとり（火曜日），読解（水曜日），文法（木曜日），および語彙（金曜日）に関する番組を生放送で毎回40分間（14：00~14：40）放映している。曜日ごとに異なる教師が出演し，番組の中では韓国語をかなり使用している。ケンブリッジ大学と提携している教材を基礎に番組は制作されている。どの番組も一人の講師がテキストと黒板を使いながら授業を進めていく。

「生放送放課後英語」の他に，방과후 영어문법（放課後英語文法），방과후 영어읽기（放課後英語読解），방과후 영어듣기（放課後英語聞きとり），および방과후 영어통합（放課後英語統合）という番組も放映されている。「放課後英語文法」，「放課後英語読解」，「放課後英語聞きとり」，および「放課後英語統合」はそれぞれLevel１とLevel２に分かれており，各26回の番組がある。上記の「生放送放課後英語」と同様のテキストを使い，講師がテキストと黒板で番組を進めていくが，「生放送放課後英語」と異なるのはアニメなども番組中に使われている点である。たとえば，「放課後英語文法」ではLet's Zoom inでアニメにより楽しく文法を学んでいき，Let's Practiceにおいて練習問題を行い，Fun with Wordsではゲームで復習し，さらに，Pop Quizでは学んだ内容のクイズを行っていく。また，「放課後英語読解」では，最初にアニメを通してテキストに掲載されている単語を学び，Let's Read with Shinyでは英文を韓国語に訳していき，Read with Musicではポップソングを歌いながら歌詞の意味を学習し，最後にRead Thinking Grammarで重要な文法表現を学んでいく。「放課後英語文法」，「放課後英語読解」，「放課後英語聞きとり」，および「放課後英語統合」は「生放送放課後英語」よりも全体的に視聴する児童を楽しませようという工夫が随所に見られる。

上記の「初等教科書英語」は全体的にゲームなどで楽しく英語を学ぶという趣旨で番組が作られているが，「放課後英語」は教師が黒板を使い，一方的に教え込む方式で，塾，中学，および高校の授業に類似しており，英語の知識を詰め込んでいく教授形態を採用している。

6.3　SEL

SELは10シリーズから構成され，SEL１からSEL５は小学生，SEL６からSEL８は中学生，SEL９からSEL10は高校生を対象にしている。小学生対象のSEL１はフォニックス，SEL２からSEL５は語彙と文法に重点が置かれている。

6.3.1　SEL１

SEL１のAlice's Wondergarden（１学期32回・２学期32回）は小学１・２年生を対象にフォニックスを教える番組である。出演者は韓国人児童３名，アリス役の韓国人児童１名，および英語母語話者男性２名であり，「不思議の国のアリス」をテーマにしている。画面に英語の字幕を表示することが多く，児童に英語を読ませることが目的であることがわかる。歌，ゲーム，アニメ，および劇などを多く取り入れており，視聴している児童が楽しんでフォニックスを学習できる。

6.3.2　SEL２

SEL２は小学３年生を対象にした番組であり，Go!Go! Time Girl（１学期32回）およびWord Circus（２学期

32回）の２つの番組がある。Go!Go! Time Girlは「話す」「聞く」ことに焦点をあてており，Go!Go! Time Girl, English Cook Cook，およびMusical Partyの３つの番組で構成されている。出演者は韓国人児童４名，韓国語母語話者女性１名，および英語母語話者男性１名である。英語母語話者が主に英語のみで児童に語りかけているため，視聴している児童がSEL１よりも英語を多く聞くことができる。Go!Go! Time Girlはタイムマシンで歴史的人物に会うなど児童を飽きさせない構成になっている。

一方，Word Circusは小学３年生の教科書に掲載されている語彙を学習するサーカスをテーマにした番組であり，出演者は高学年から中学生の韓国人児童２名と英語母語話者男性２名である。出演している韓国人児童は歌と踊りが上手であり，英語も上級レベルである。SEL１およびSEL２のGo!Go! Time Girlに比べて英語が多く使われている。アニメを使ってフォニックス（例：big・wig・pig・digなど）の学習も行っている。

6.3.3　SEL３

SEL３は小学４年生を対象にした番組でありWow! Game Land（１学期32回）およびGra Gra Grammar（２学期32回）がある。Wow! Game Landは「話す」「聞く」ことに焦点をあてており，Wow! Game Land，English Cook Cook，およびMusical Partyの３つの番組で構成されている。出演者は韓国人児童４名，韓国語母語話者女性１名，および英語母語話者男性１名である。Wow! Game Landでは，Game Landという設定になっているため，ゲームを多く取り入れている。しかし，ほとんどの部分において韓国が話されており，英語が話されている部分が少ない。

一方，Gra Gra Grammarは文法学習に焦点をあてた番組であり，出演者は韓国人児童１名，韓国語母語話者女性１名，および英語母語話者男性２名である。文法を映像・絵・チャンツなどを使用して説明し，また，ハリーポッターのキャラクターを採用するなど児童の動機づけを高めようとする工夫が番組の随所に見られる。文法学習に重点を置いているため，韓国語で行う文法説明がかなり多いが，小学生を飽きさせないように２・３分ごとに場面を変え，いろいろな工夫をしながら文法を説明している。小学生に文法を教える際に，参考になる番組である。

6.3.4　SEL４

SEL４は小学５年生用の番組であり，Spy Zone（１学期32回）およびNew Spy Zone（２学期16回）がある。Spy Zoneは４技能「読む」「話す」「聞く」「書く」を学習させる番組であり，Spy Zone，Science，およびSocial Studiesの３つの番組で構成されている。Spy Zoneは毎回６名の児童がミッションを受け，そのミッションを遂行していく形で番組が進行していく。出演者は韓国人児童６名，韓国語母語話者女性１名，および英語母語話者男性１名である。出演している児童の英語のレベルは韓国の小学５年生として標準的であり，英語母語話者と韓国語母語話者の指示に従って楽しくゲームを行っている。

ScienceおよびSocial Studiesは内容重視の指導法を取り入れた番組である。内容重視の指導とは「教科内容と第２言語スキルを同時に指導すること」(Brington, Snow, & Wesche，1989，p. 2）であり，各教科の枠組みを超えて１つのテーマを学習することにより各教科での既習事項や経験を活用しながら，テーマを深めたり，統合したり，発展したりすることができる（Stryker & Leaver, 1997)。

韓国の小学５年生として標準的な英語のレベルである児童に英語のみで話しかけているため，出演している英語母語話者が他の番組の英語母語話者よりもわかりやすい英語で語りかけている。他の番組では，児童に英語を理解させるために韓国語を使うか，あるいは高い英語力を持つ児童を出演させているが，Spy Zoneでは，標準的な英語力の児童に英語で話しかけているため，簡単な単語を使う，ゆっくりと大きくはっきりと話す，ジェスチャーを交えて話すなど話し方の工夫が随所に見られる。

一方，New Spy Zoneは毎回，韓国人児童がミッションを受け，そのミッションを遂行していく形で番組は進行していく。出演者は韓国人児童３名および英語母語話者男性１名である。たとえば，Unit１のミッションはFind the dangerous thing in the Yukanda forestというものであり，環境問題（森のごみについて）をテーマにしているが，同時に文法学習にも重点が置かれており，３名の児童が複数形の作り方などの文法説明をリズムのよい歌に合わせてアニメや映像を見せながら行っていた。日本において小学生に文法を教える際に参考になる番組である。

6.3.5　SEL５

SEL５は小学６年生対象の番組であり，Tok Tok English（１学期32回）およびCyber Tales（２学期16回）がある。Tok Tok Englishは４技能「読む」「話す」「聞く」「書く」を学習させる番組であり，Tok Tok English，Science，およびSocial Studyの３つの番組で構成されている。ScienceとSocial Studyでは内容重視の指導法を採用しており，小学６年生の興味を引く内容が多い。出演者は韓国人児童４名，韓国語母語話者女性１名，および英語母語話者男性１名である。英語母語話者は英語のみで話しかけているが，出演している児童の英語のレベルが高いため，視聴している児童の中には番組で話される英語が理解できない児童も多いと予想できる。

Cyber Talesは文法学習の番組であり，出演者は韓国人児童１名および英語母語話者男性１名であり，韓国人

児童が文法説明を韓国語と英語で行っている。その他，小学生が出演し，テーマになっている文法を使って質問を行い，それに英語話者が答えるコーナーがある。全体的にSEL４のNew Spy Zoneのような工夫はあまり感じられない。

7. 考察

本研究では，「初等教科書英語」，「放課後英語」，および「SEL」の３つのシリーズの分析を行った。ここでは全体的な考察を行う。

「初等教科書英語」は，10分間の番組の中でターゲットとなる表現を何度も聞かせ，英語を繰り返して話させる工夫が随所になされていた。また，教室でそのまま行うことができるゲームを行い，異文化理解として世界の文化を紹介するなど，教科書の補助教材として使いやすい番組である。「初等教科書英語」は小学校の教員をサポートする番組であり，日本においても今後「初等教科書英語」のような教科書を補助する番組が必要であろう。

一方，「放課後英語」は教師が黒板を使い，一方的に文法・語彙・読解・聴解などを教え込む番組で，塾，中学，高校などの授業に近く，ゲームなどを取り入れている「初等教科書英語」とはかなり異なる。番組の前で40分間一人の講師の講義を聴くスタイルは，英語学習に対する動機づけが低い児童が面白いと思える番組ではない。ゆえに，英語をもっと学びたいと思っている児童や塾に行きたくても地理的・経済的な理由から行けない児童を対象にしている番組であると思われる。

最後にSELについて考察していく。SEL４のSpy ZoneおよびSEL５のTok Tok Englishは内容重視の指導法を取り入れた番組であるが，SEL５のTok Tok Englishは出演している児童の英語力が高いため，番組はかなり早いペースで進められていく。そのため視聴している児童の中には番組の内容をよく理解できない児童も少なからずいるということは容易に予想できる。一方，SEL４のSpy Zoneは英語のレベルが標準的である児童が出演しているため，彼らに合わせた説明が行われており，小学生に内容重視の指導法を行う際に参考になる番組である。このように内容重視の指導法を取り入れた番組を制作する際には，英語力が高い児童ではなく，標準的かあるいはそれよりも下のレベルの児童を出演させたほうがわかりやすい番組になることがわかる。

また，文法を学ぶ番組としてはSEL３のGra Gra GrammarおよびSEL４のNew Spy Zoneが小学生に文法をわかりやすく楽しく教えているおり，この２つの番組は日本において小学生に文法をどのように教えるべきかなどの示唆を与えてくれる。

ところで，渡辺（2008）によれば，EBS-eを使用することにより，韓国人教師でも一定レベルの授業ができると教師たちは評価しているが，一方で，「２学期に入って急に文法中心になり難易度が上がった。番組のレベルが一定でない」「必ずしも教科書の内容と連動していないし，学年と番組のレベルが一致していない」などとSELに対して不満を持っている記述がいくつか見られた。本研究の番組分析の結果からも，「初等教科書英語」および「放課後英語」は全体として統一したカリキュラムにより，どの番組も比較的同じような構成で制作されていたが，SELは番組により内容，レベル，および構成がかなり異なっていることが明らかになった。

たとえば，SEL３の小学４年生対象のWow! Game Landは韓国語で話している部分がほとんどで，英語の部分は極端に少ない。教育人的支援部（2007）は小学４年生の達成基準を「日常生活に関する簡単な対話を聞いて理解する」「身近な事物と人に関するやさしくて簡単な話を聞いて理解する」「やさしくて簡単な対話を聞いて，対話が起きた場所と時間などが分かる」「やさしくて明瞭な説明を聞いて単純な課題を遂行する」と記載しているが，番組で話されている英語のレベルはこの達成基準よりも低い。一方で，SEL２の小学３年生対象の番組であるWord Circusでは，Wow! Game Landよりも英語を多く使っており，また，簡単な語彙を読む練習も行っている。つまり，小学３年生対象のWord Circusのほうが小学４年生対象のWow! Game Landよりも内容が難しくなっている。

また，SEL５では６年生「１学期」に放映されるTok Tok Englishは，内容重視の教授法を取り入れているため，教育人的支援部（2007）が示している６年生の達成基準である「簡単な話や対話を聞いて中心的な内容を理解する」「簡単な話や対話を聞いて細部事項を理解する」「簡単な話や対話を聞いて事件が起きた順序が分かる」よりも高度な内容が英語で話されている。一方，６年生「２学期」のCyber Talesは文法中心の番組であり，文法説明を韓国語で行う部分も多く，Tok Tok Englishよりも簡単な英語を使っている。つまり，６年生の番組は１学期の番組のほうが難しく，２学期の番組のほうが簡単になっている。

これらのことからも，SELが学年や学期が進むにつれて，順にレベルをあげて使用する番組ではないことがわかる。そのようなことから，SELは学校の授業で使用することを意図して制作された番組ではあるが，必ずしも学校の授業で使いやすい教材であるとはいえないようである（渡辺，2008）。ゆえに，日本において制作する際にはそのような点を改良し，学年があがるにつれて徐々に難しくなっていくような番組を制作する必要があるであろう。

しかし，SELにはすべての番組において，ダウンロードしてそのまま授業で使用できる紙教材が用意されている。このようにそのまま使用できる教材が準備されていると，番組を視聴後，それらを配布して関連するアクテ

ィビティを行うことができる。ゆえに，日本でも学校放送番組を制作する際にはこのようなダウンロードできる教材を準備する必要があるであろう。

8. 今後の課題

最後に今後の課題について述べる。第一に，本研究ではEBS-eの小学生対象番組のうち「初等教科書英語」,「放課後英語」，および「SEL」の分析を行ったが，EBS-eにはこれらの番組の他にも小学生対象の多くの番組が提供されている。今後はそれらの番組の分析を行う必要がある。第二に，本研究は番組分析を行ったのみで，EBS-eを使用している実際の授業を観察していない。ゆえに，今後は韓国の小学校においてどのようにEBS-eを活用しているかなど授業観察を行う必要があるであろう。また，これらの番組を使用してどの程度の効果が見られたのかなど，教師や児童に対する質問紙調査を行う必要もあるであろう。第三に，渡辺（2008）によれば，ブロードバンド環境が整っているインチョン広域市では積極的にEBS-eを取り入れている小学校もあるが，ソウル近郊では英語塾に行く児童が多く，あまりEBS-eに対して期待をしていないようである。一方，地域差を解消するためにはじめたEBS-eではあるが, 地方ではブロードバンド・インターネットの加入率がまだ低いため，十分に活用できないという矛盾もあるようである。また，EBS-eは2007年にはじまったばかりであり，まだ世間に広く認知されていないことから，今後EBS-eが小学校や家庭においてどのように普及していくのか，さらなる調査が必要である。上記のような調査を行うことにより，日本において小学生対象の英語の放送番組をどのように活用し，どのような番組を制作するべきかなどより明確な示唆を得ることができるであろう。

9. まとめ

日本への示唆として以下のようなことがあげられる。「初等教科書英語」のような番組は，英語があまり得意でない小学校教員が一定レベルの授業を行う助けになり，彼らの負担を軽くするのではないかと思われる。一方,「放課後英語」は日本のコミュニケーション重視の小学校外国語活動の方針とはかなり異なるものであり，今の日本の小学校外国語活動の現状にはそぐわない番組である。SELに関しては，提示されている学年や学期通りに教師が使用できないなどの問題はあるが，SELの番組の中には，文法指導（SEL３のGra Gra Grammarおよび SEL４のNew Spy Zone）や内容重視の教授法（SEL４のSpy Zone）を取り入れた番組など日本が参考にできる良質な番組がいくつかある。また，SELのように毎回の番組ごとにそのまま授業で使用できる教材がPDFとしてダウンロードできるという点も今後日本の学校放送番組が見習いたい点である。

日本の小学生対象の英語の放送番組と比較した場合，１つ１つの番組を比べれば，日本の番組も韓国の番組とは見劣りしないぐらい良質な番組も多い。しかし，日本は放映している番組数が圧倒的に少ない。日本において現在放映されている番組はNHK教育テレビの小学５・６年生を対象にした「えいごルーキーGABBY」と「えいごでしゃべらないとJr.」のみである。

一方，EBS-eでは今回分析対象にした「初等教科書英語」（４番組),「放課後英語」（９番組), および「SEL」（９番組）だけでも合計で22番組あり，児童のレベルや興味に合わせて番組を選ぶことができる。アジアの中で教育面における後進国とならないためにも，日本はこの現状をよく理解し，小学校の外国語活動における放送番組の活用というものを今後真剣に検討していかなければならないであろう。

本稿はH21～H23年度科学研究費助成金基盤研究（C）課題番号21520641の研究成果の一部である。

引用文献

岡秀夫・金森強（2007）.『小学校英語教育の進め方』成美堂
河合忠仁（2004）.『韓国の英語教育政策―日本の英語教育政策の問題点を探る―』関西大学出版部
韓国教育部（1997）.『小学校教育課程』入手先〈http://www.kice.re.kr/ko/board/view.do?article_id=60421&menu_id=10134〉（参照2010-01-10）
韓国教育部（2007）.『私教育実態調査』
教育人的支援部（2007）. 教育人的支援部公示第2007年79号
金泰勲（2007）.「韓国の小学校における英語教育の現状と課題」『日本大学教育学会』42, 75-94.
師子鹿元美（2009）.「韓国における早期英語教育―釜山広域市小中学校英語没入教育特別職務研修プログラムを通して―」『別府大学短期大学部紀要』28, 71-80.
杉山明枝（2008）.「韓国小学校英語教育の10年と今後の動向小学校英語必修化に動きだした日本への示唆」『論集』29, 64-88.
杉山明枝（2009）.「韓国小学校英語教育改革と日本への示唆―2007年改訂教育課程から李明博英語改革法案へ―」『論集』30, 48-69.
樋口謙一郎（2008）.「韓国―英語教育政策の経緯と論点」『小学生に英語を教えるとは？アジアと日本の教育現場から』めこん, 123-136.
樋口忠彦（2005）.「諸外国における小学校外国語教育」樋口忠彦（編）『これからの小学校英語教育―理論と実践―』研究社, 1-33.
文部科学省（2008）. 小学校学習指導要領解説　外国語活動編

渡辺誓司（2008）.「放送・メディアが小学校英語を豊かにする～韓国の事例から～」『放送研究と調査』６月号, 56-65.

Brington, D. M., Snow, M. A. & Wesche, M. B.（1989）. *Content-based second language instruction*. New York: New bury House.

Stryker, S. B. & Leaver, B. L.（1997）. Content-based instruction: Some lessons and implications. In S. B. Stryker and B. L. Leaver（Eds.）*Content-based instruction in foreign language education*（pp. 285-312）. Washington, D.C.: Georgetown University Press.

カレイラ松崎　順子
津田塾大学大学院文学研究科コミュニケーション研究言語教育後期博士課程を終了し，現在，東京未来大学専任講師である。外国語学習における動機づけなどの学習者要因を中心に研究を行っている。

Analysis of Programs for Elementary School Students of Korean Educational Broadcasting System（EBS）English

Junko Matsuzaki Carreira[1)]

There have been significant differences in English abilities of elementary school students between cities and countries in Korea. In order to solve such problems, the Korean government launched Korean Educational Broadcasting System（EBS）English, a channel to supplement the public school English curriculum, in 2007. There are 75 English education programs for elementary school students. This study analyzed three series for elementary school students of EBS-e, including English after School, Elementary School Textbook English, and School English Level, which would have important implications for English education at elementary schools in Japan.

Keywords
English Education, Elementary School, Korea, EBS-e, Broadcast Program

[1)] Tokyo Future University